

かおりの闘うしあわせ改革 第3の柱

# 南区の宝物、自然環境を守ります

「闘うしあわせ改革」の三つ目の柱は、貴重な自然環境を守り未来の子たちに引き継ぐこと。市内でも特に起伏に富んだ南区。ここは古代浜辺であったといわれ、その低地部分に、今では南区の宝物である貴重な水辺が残されています。別所沼、白幡沼、上谷沼、笹目川など。公園が少ない南区民にとっては大切な憩いの場です。



定期的な清掃活動を行うふるさと上谷沼地域創造塾の皆さん



昆虫と野鳥の宝庫  
**上谷沼**



JR武蔵浦和駅徒歩3分、西南桜が咲き誇る

桜咲く  
**花と緑の散歩道**



水辺再生へ  
**別所沼公園**



バッタやトンボを追って草原をかける子どもたち。澄み切った大空に歓声が響く

水質浄化が長年の課題だった別所沼公園。沼の水を抜いて底の泥を天日干しする「かいぼり」が行われます



水面のゴミを取る別所沼を守る会のメンバー



木橋架かる  
**笹目川**

様々な形の木橋が架かる笹目川。サギやカモなどの野鳥も多く、季節の到来を知らせる野の花が咲き乱れる



街なかのオアシス  
**白幡沼**



休日には家族連れでにぎわう白幡沼



八重桜咲く  
**白幡緑道**

八重桜や木蓮が咲く白幡緑道

## Column

かおりの夢  
見沼たんぽに「しあわせの桜の園」を

「千重子は神苑の入り口を入るなり、咲き満ちた紅しだれ桜の花の色が、胸の底まで先満ちて、『ああ、今年も京の春に会った』と、立ち尽くした。ノーベル賞作家川端康成の名作「古都」の一文です。紅しだれ桜は京都平安神宮の桜。受賞後、自らの命を絶った作家の姿と、ほろほろと散り落ちる桜の花びらの風情が重なって、人の一生とは、なんとほかないものかという思いが胸に迫ります。

岐阜県根尾谷の淡墨(うすずみ)桜は樹齢千五百年、山梨県武川村の神代桜は樹齢千百年、福島県三春の滝桜は樹齢千年といわれています。60年寿命説のソメイヨシノと比べて、ヤマザクラは、はるかに長生きする花樹です。もっともソメイヨシノは江戸時代の享保15年(1730)ごろ、江戸の染井に誕生したといわれますから、その歴史はわずか284年です。

桜の名所でも知られる見沼たんぽは、さいたま市のほぼ中央をYの字状に縦に広がる巨大緑地空間で、都心から20~30km圏にあります。広さは1260haでなんと東京ドームのおよそ270個分にもなります。そこにヤマザクラの園をつくる…。それも市民の手で…。お年寄りの長寿を、若いカップルの結婚を、赤ちゃんの誕生などを祝って桜を植える。それぞれの祈りや願いや思いがいっぱい詰まった「しあわせのさくら園」を実現したい。

